

1 令和2年度の研究推進へむけて —令和元年度までの成果と課題を踏まえて—

本学園では、平成27～29年度 広南中学校が「学びの変革」パイロット校を受け、小学校と連携しながら、新学習指導要領を見据え、資質・能力を「志（こころの力）」と「力（かなえる力）」の2つの柱をもとに7つの資質・能力を設定している。地域の人材を活用し、社会に開かれた教育課程を念頭に、「志を抱く」「準備をする」「挑戦する」「振り返る」という「学び方の基軸」に基づいた「教科横断的・総合的なPROJECT学習（課題発見・解決学習）」のカリキュラムの開発を「貫きカリキュラム」というカリキュラムデザインの手法と、「Sループリック」を活用した評価方法のアイデアをもとに、実践的に研究を進めてきた。

その結果、下図の4つのデータから分かるように、本学園で進めてきた単元開発および実践が「志（こころの力）」とりわけ「挑戦・探究」に関わる資質・能力を育てることに有効であったことが分かる。このことは、落語や起業PROJECTなどの総合的な学習の時間における取組に加え、各種検定に挑戦する「トリプル3」の取組を学園全体で行うなど、児童生徒に挑戦の機会を積極的に与えることで着実に育ってきたものと考えている。また、このことは、学力の向上にも結び付いていることが分かる。

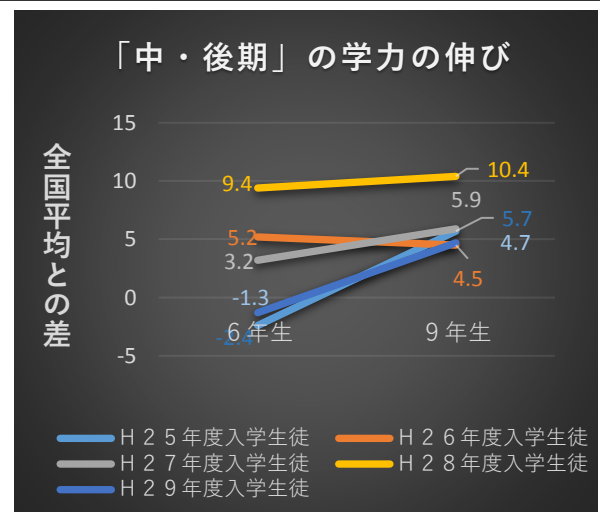
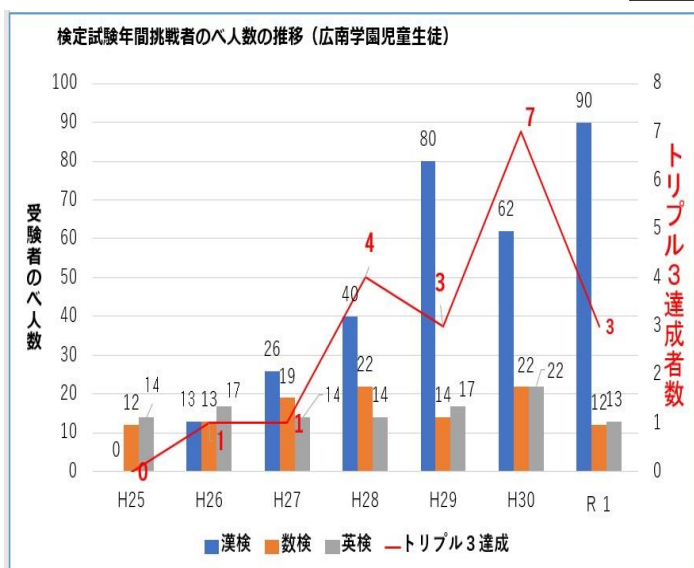
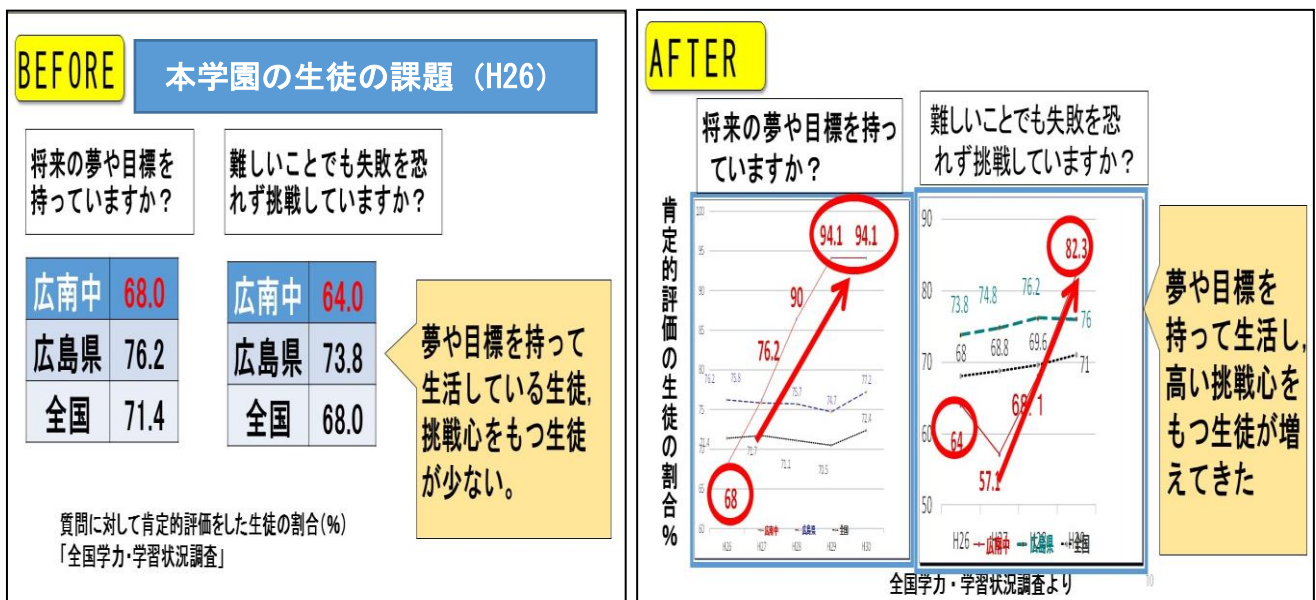


図1 全国学力・学習状況調査より

また、総合的な学習の時間に学んだ「落語」や「箏」「尺八」などを、地域の花見会や敬老会等の地域行事に、ボランティアで主体的に出向いて披露するなど、学んだ成果を活用して社会に貢献することが新しい学園の伝統として育ちつつあることから社会に開かれた教育課程としての成果が見え始めている。



地域の花見会で、落語を披露する生徒

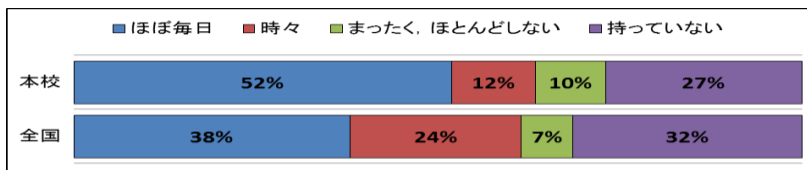
これらのことは、これまでの研究の指標にしてきた「学習習慣・学習動機・学習意欲」「課題発見・解決学習」の項目において、「県平均を遥かに上回る 80% 以上の肯定的評価がほぼ維持できていることからわかる。一方で、「読書活動」は県平均を上回っているものの、平成 30 年度に大きな減少を示しており、新たな課題が生じていることがわかった。

(表 1 参照)

＜表 1＞指標(学習と生活アンケートの項目アンケートのそれぞれの平均)	H29		H30		R1	
	肯定的評価	県平均とのポイント差	肯定的評価	県平均とのポイント差	肯定的評価	県平均とのポイント差
学習習慣・学習動機・学習意欲	85%	+20	80%	+14	81%	+15
課題発見・解決学習	89%	+26	86%	+23	85%	+22
読書活動	90%	+31	65%	+10	71%	+15

「読書活動」については、令和元年度も 5 ポイントの上昇に留まり、急速な本離れが進んでいることがわかった。また、同時に「ネット依存」が進んでいる実態が明らかになってきた。

「携帯電話やスマートフォンでの通話やメール」
(全国学力・学習状況調査より)



今、社会は、AI とロボット技術の急速な進化により、Society5.0 への急速な変貌を遂げていることが言われているが、児童生徒の生活も確実に大きく変貌しつつある。

そこで、昨年度、私達は研究主題を「Society5.0 を生きる資質・能力の育成」とし、今、予想される未来を把握することから、資質・能力を育てる方策を探究していくこととした。また、情報活用能力は Society5.0 を生きる重要な資質・能力のひとつとなると考え、9年間を見通した ICT 活用能力のカリキュラムデザインを開発することに取り組んだ。さらに、平成 30 年度の西日本豪雨災害を受け、津波を想定した避難プログラムの開発と 9年間を見通した防災教育のカリキュラムデザインを開発することに取り組んだ。また、これまで培ってきた本学園の特色ある教育課程を持続可能にしていくことが大切であるが、形骸化を防ぐためには、何より教師の指導力の向上が肝要である。課題発見・解決学習は、「単元開発」すればよいのではなく、そのことを通して「毎日の授業でどれだけ、児童生徒の振り返りを大切に、次の授業につなげられるようになったか」が重要である。そして、児童生徒の主体性を育てるコーチング指導力を身に付けることが重要であると考え、昨年度「TPO に応じた言葉磨き」を通して、教師力を高めることに取り組んできた。令和 2 年度は、昨年度の研究の成果と課題を踏まえて、引き続き「ICT 活用能力の向上と言言葉磨き」と「Society 5.0 を見据えたカリキュラムデザイン」に取り組む。なお、「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。」の中学生の肯定的回答が他の項目と比べ低いことから、児童生徒の言葉磨きでは「三角ロジック」を活用して取り組む。

2 令和2年度 研究主題および研究仮説

Society5.0 を生きる資質・能力の育成をめざして ～言葉磨きとICTの活用～

研究仮説

教師と児童生徒が、Society5.0 をキーワードに、予想される未来を把握することから、取り組むべき課題を共有し、課題解決へ向かう探究的な学習を進めるとともに、TPOに応じてより的確な言葉を選び、伝えあう言語能力を高めるための言葉磨きを行い、ICTを活用する情報活用能力を高めることは、あらゆる場面の学びがい（学びの価値と学びの質）を深め、未来を創る資質・能力（「志（こころの力）及び「力（叶える力）」を育てることに有効であろう。

3 研究推進体制

広南中学校区 管理職ミーティング（原則週1回）

【 広南中学校区小中一貫教育合同企画会議 】（原則月1回）

校長，教頭，小中一貫教育推進コーディネーター，教務主任研究主任，生徒指導主事

【「指導力」向上部会】

ミッション

- ・小中9年間を見通した児童生徒の指導体制の確立
- ・「本時の展開」の授業改善（蟻の目）

部会の研究テーマ

児童生徒の主体性（学びに向かう力・人間性）を育てる指導の工夫【指導技術・方法の改善】

R2 研究テーマ

- TPOを意識した言葉磨きとICTの活用力の向上
- 授業改善
 - ・「思考を促し深める」発問・指示の工夫
 - ・「自分の考えを理由を明らかにして分かりやすく伝える」発表の工夫～三角ロジックの活用～
- ・ICTの効果的な活用
- 主体的・対話的で深い学びを育む評価活動
 - ・児童生徒の意欲を高める言葉がけ
- 【相手を大切にす礼節の校風づくり】
- 【先輩後輩・地域との絆づくり】
- 【健康・運動・生活づくり】
- 生活ルーブリック・「5つの合言葉・3つの約束」
- ・メディアコントロール

校長(小)，教頭(中) 小中一貫 CO(小)

教職員

【「学びがい」向上部会】

ミッション

- ・小中9年間を見通したカリキュラムマネジメント
- ・「貫きカリキュラム」・単元のマネジメント（鷹の目）

部会の研究テーマ

学習内容の学びがい（学ぶ価値・学びの質）を深める工夫【課題発見・解決学習の単元開発】

R2 研究テーマ

- Society5.0を見据えたカリキュラムデザイン
- 挑戦問題の開発
- 貫きカリキュラム
 - ・小中をつなぎ、考えを深める「道徳 貫きカリキュラム」の開発
 - ・開発した「防災 貫きカリキュラム」の実践・改善
 - ・開発した「ICT 貫きカリキュラム」の実践・改善
- Sルーブリックの活用
- 【活躍・挑戦の場づくり】
- 授業での活躍の場
- 校外への挑戦の場

校長(中)，教頭(小) 小中一貫 CO(中)

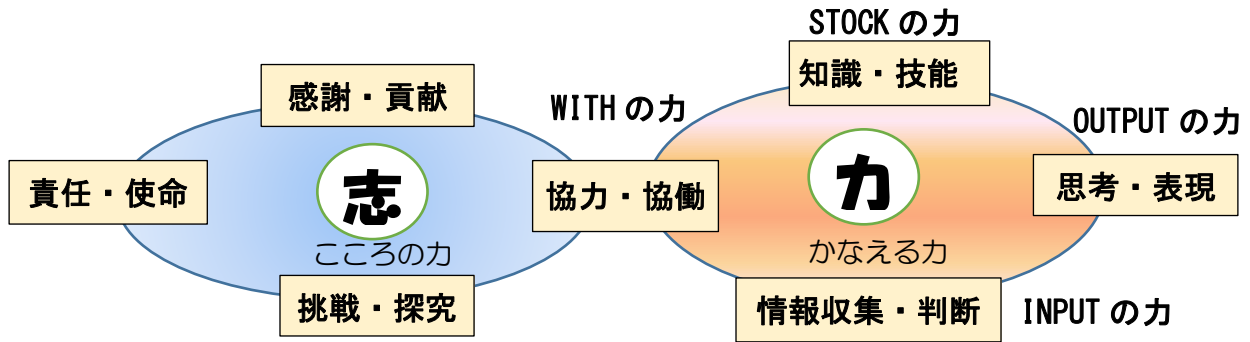
教職員

4 本学園の教育目標を実現する資質・能力の設定

令和2年度の学園教育目標 「未来を創る」

「誇りを持って故里を語り、受け継ぎ、発展を担う志と力を育てる教育の創造」

＜未来を創る志と力を育てる2つの柱と7つの資質・能力＞



資質・能力		めざす学びの姿（評価規準）	
力	問題解決へ向かう探究の能力	知識・技能	課題解決に必要な知識や技能を習得し、活用することができる。
		情報収集・判断	尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。
		思考・表現	しっかり考えて、学びを自分のものにして表現することができる。
		協力・協働	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。
志	主体的・協働的に地域社会に参画しようとする意欲と態度	感謝・貢献	感謝の心を持って、自分なりに貢献することができる。
		責任・使命	自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。
		挑戦・探究	夢を持ち、疑問やできないことを大切にし、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。

5 学びがい（学ぶ価値と学びの質）を向上させる授業改善のポイント

- (1) 教科横断的・総合的な問題解決の学習の流れを念頭に置いた深い学びの過程になっているか。
単元計画 ＜貫きカリキュラム・カリキュラムマップの活用＞
 - (2) 他者との協働や外界との相互作用を通じて自分の考えを広げ深める対話的な学びの過程になっているか。
授業の展開 ＜TPOに応じた教師・児童生徒の言葉磨きおよびICTの活用＞
 - (3) 意欲的に学びに向かい、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習を振り返って次につなげる主体的な学びの過程になっているか。
授業の導入および終末＜ICT等を活用した意欲付け＞＜児童生徒の振り返りの活用＞
 - (4) どのような資質・能力が育つか学びの質を見取る評価基準の共有がなされているか。
- ※ 今年度は、上記の4つの視点で指導案を作成し、授業研究を行う。また、小中での授業研究は、**2STEPカンファレンス：蟻の目（本時の展開）、鷹の目（貫きカリキュラム）**を行う。
- ※ 以下に学習指導案の形式を示す。

教科	第 学年	呉市立広南小学校	指導者 名前
単元名	「単元名(題材名)」		
	『 挑戦問題 』		
本単元で育成する資質・能力	知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 責任・使命 協力・協働 感謝・貢献		

資質能力について、必要ない項目は削除する。

1 対象・日時 第 学年 組 男子 名 女子 名 計 名
令和2年 月 日 () 第 校時

2 単元で目指す学ぶ姿

<単元で児童と共有する学びの姿を見取る資質・能力のルーブリック>

現指導要領	資質・能力	評価	評価規準
知識・理解・技能 <small>言語についての</small>	知識・技能	知識技能	S
		知識技能	A
書く能力	思考力・判断力・表現力	情報収集	S
		判断	A
		思考表現	S
		思考表現	A
国語への関心・意欲・態度	学びに向かう力・人間性	挑戦探究	S
		挑戦探究	A
		責任使命	S
		責任使命	A
		協力協働	S
		協力協働	A
		感謝貢献	S
		感謝貢献	A

資質能力について、必要ない項目は削除する。

3 単元について

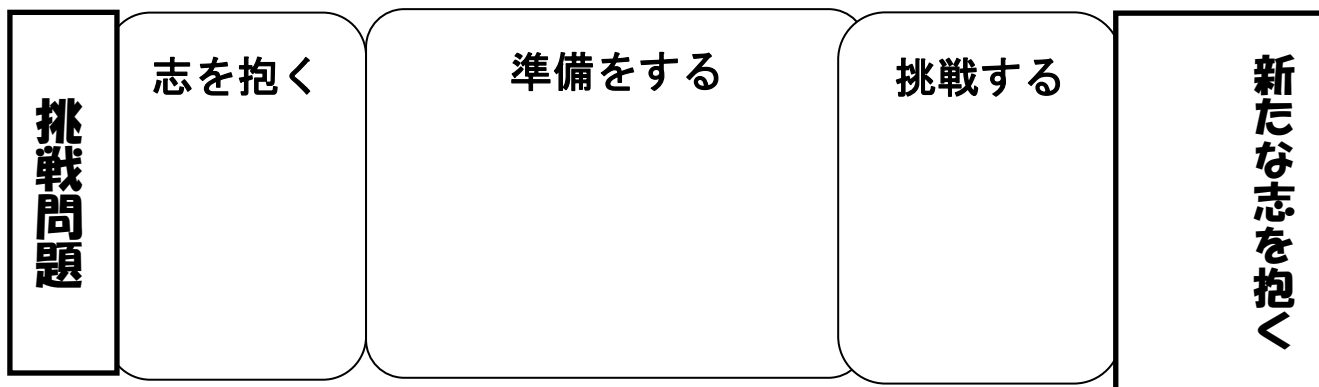
(1) 単元観

(2) 児童観

(3) 指導観

指導にあたっては、次の3つのポイントで授業改善をすすめる。

① 挑戦問題から始まる課題発見・解決学習の流れを次のように設定する。



② 言葉磨き

③ ICTの活用

④ ワークシート・ノート指導の工夫

4 単元の目標

5 指導と評価の計画 (全 時間)

次	学習活動	関	書	言	評価規準【資質・能力】 (評価方法)
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">課題の設定</div> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">挑戦問題</div>				書くこと【情報収集・判断】 ●……………できる。()

2	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">情報の収集</div>			<p style="text-align: center;">【 】</p> <p>●.....できる。 ()</p>
2	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">整理・分析</div>			<p style="text-align: center;">【 】</p> <p>●.....できる。 ()</p>
3				<p style="text-align: center;">【 】</p> <p>●.....できる。 ()</p>
4	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;">情報の収集</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">整理・分析</div>			<p style="text-align: center;">【 】</p> <p>●.....できる。 ()</p>
5	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">情報の収集</div>			<p style="text-align: center;">【 】</p> <p>●.....できる。 ()</p>
6	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;">整理・分析</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">まとめ・創造・表現</div>			<p style="text-align: center;">【 】</p> <p>●.....できる。 ()</p>
7	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">まとめ・創造・表現</div>			<p style="text-align: center;">【 】</p> <p>●.....できる。 ()</p>

6 本時の学習 (時間目 / 全 時間)

(1) 本時のねらい することができる。

書くこと 資質・能力【 】

(2) 学習の流れ

	学習活動	児童の活動 (形態を含む) 指導上の留意点 (・)	評価規準 【資質・能力】 (評価方法)
導入分	<p>○ 前時の振り返りの紹介, 家庭学習および既習事項の確認等を行い, 前時とつなげる。行う。</p> <p>○ 「 」</p> <p>児童に課題意識を持たせるための教師の発問の具体例</p> <p>めあて:</p>	<p>児童に期待する思考や発言の具体例</p> <p>A 評定を書く。</p>	
展開分	<p>○ ICT 一斉</p> <p>学びを深めるための教師の発問の具体例</p> <p>○</p>	<p>話型</p> <p>児童に期待する思考や発言の具体例</p> <p>めあてに対応したまとめをする。できれば児童の言葉でまとめさせる。</p>	<p>書くこと</p> <p>【 】</p> <p>.</p> <p>ことができる ()</p>
終末分	<p>○</p> <p>まとめ:</p> <p>○ 振り返りをかく。</p>	<p>可能であれば, 予習問題や復習課題を提示し, 次時につなげる。</p>	

〇〇科学習指導案（略案）

呉市立広南中学校
指導者 〇〇 〇〇

- 1 日 時 令和2年〇月〇日（曜日） 第〇校時
- 2 学年・学級 第〇学年〇組（男子〇名 女子〇名 計〇名）
- 3 単 元 名（本時） …………… （ ）
- 4 本時のねらい

…………… することができる。

・教科の評価の観点……………『 』 ・資質・能力【〇〇】

5 学習の流れ

	学習内容	児童・生徒の活動（形態を含む） 指導上の留意点（・）	評価規準 【資質・能力】
導 入 (〇分) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">課題意識を持つ</div>	○前時の振り返りの紹介，家庭学習及び既習事項の確認を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">質問</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて： ……………</div>	ICT 一斉 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">児童生徒に期待する思考や発言の具体例</div>	
展 開 (〇分) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">学びを深める</div>	○児童生徒の活動やグループ活動 共感 ○ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">発問</div>	ICT 協議 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">児童生徒に期待する思考や発言の具体例</div> 話型	教科の評価の観点『 』 【資質・能力】 …………… （ノート）
終 末 (〇分) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">学習過程を振り返る</div>	○生徒のことばでまとめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">まとめ：</div> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに記入する。 ・復習課題を提示する。 		【知識・理解】 （復習課題）

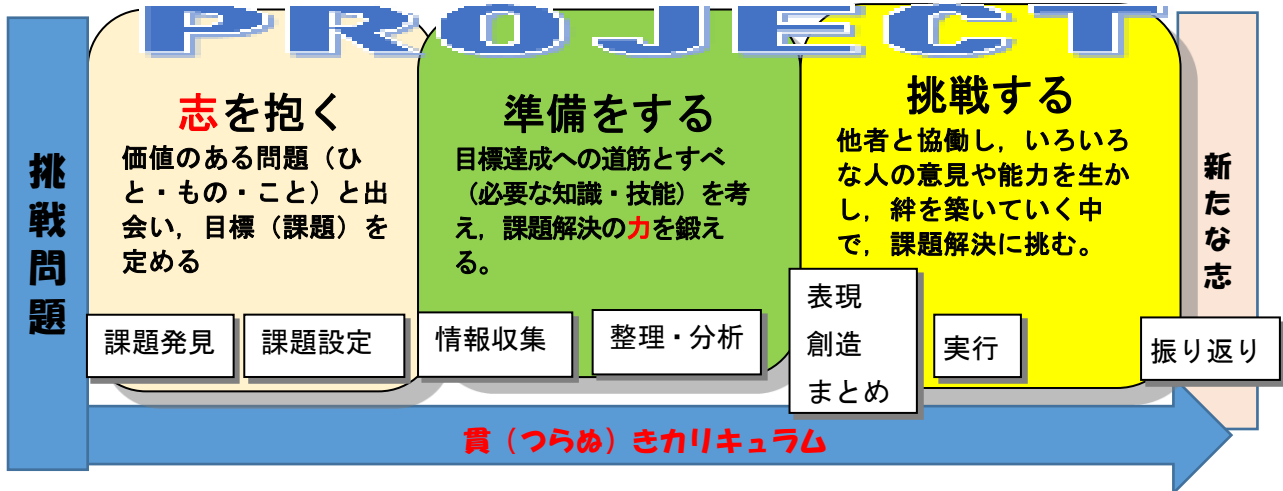
教科の見方・考え方（本時）：

6 カリキュラムマネジメント

① カリキュラムデザイン **貫きカリキュラム**

教師の願いを基盤として、一つの挑戦問題から始まる課題発見・解決学習の流れを、実社会における横断的・総合的な探究の過程に沿って様々な単元・題材等を関連付け一つの PROJECT として貫きを持たせることで、児童生徒の主体性を引き出し、実社会における問題解決に向かう志と探究的な能力(資質・能力)を育てるカリキュラムに高める。

実社会における問題解決に向かう探究の過程



なお、本校では、「課題」と「問題」の用語については次のように整理している。

挑戦問題	解決すべき問題と出あわせるため教師から行う意図的な問題提起
課題発見	教師の問題提起を受けて児童生徒が自ら見出す自分で取り組むべき課題 または、学習の結果、児童生徒が自ら見出すさらなる取り組むべき課題
課題設定	課題解決へむけての見通しを示したもの
課題解決	課題解決により問題解決へむけてのすべ(知識・技能など)を得ること
問題解決	課題解決で得られたすべと協働的な営みの積み重ねにより挑戦問題の解決を図ること

7 評価計画

短期スパン → 資質・能力ルーブリックを活用して形成的評価に活用

毎時間の授業、行事の目標を資質・能力のルーブリックを活用して設定

短・中期スパン → 単元ごと総括的評価

【単元始め】単元目標にそった資質・能力ルーブリックの提示

【単元終わり】パフォーマンス評価等を活用し、ルーブリックに基づく自己評価+他者評価

中期スパン → 学期ごとに総括的評価 (県のデータと比較することで客観性を確保)

【7月】1学期の振り返り (学習と生活のアンケート項目の活用)

【12月】1・2学期の振り返り (学習と生活のアンケート項目の活用) (次ページ参照)

長期スパン (1年ごと) 個人内総括的評価+総括的評価

【4月】未来を創る力の全体像の提示

※ 今年度は、これらのスパン(短期・中期・長期)の資質・能力の評価をキャリアノートを活用しながら研究する。

中期スパンの資質・能力の変容には、学習と生活のアンケート項目を活用

令和元年度 生活と学習アンケート 12月

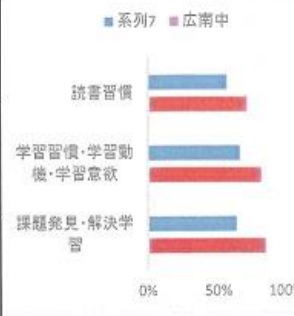
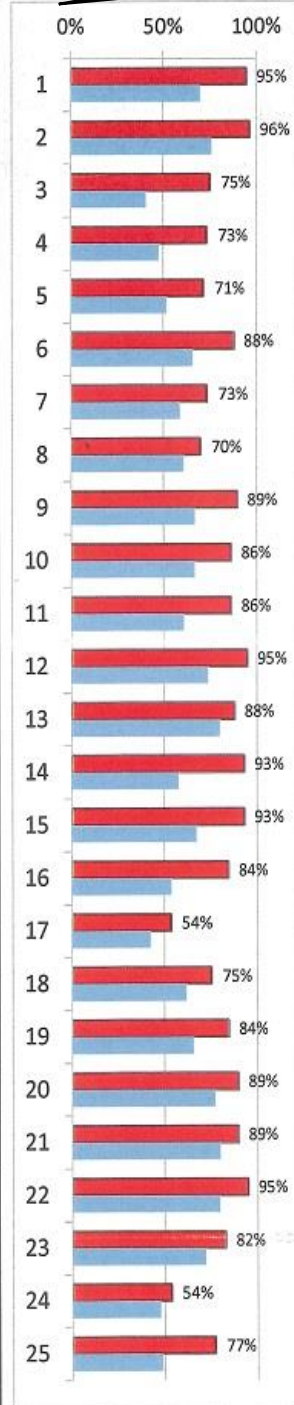
小学校

学校 評価	領域	「生活と学習」アンケート	肯定的評価 12月							平均	H30 12月	RO1 県平均 (基礎 基本)
			第1 学年	第2 学年	第3 学年	第4 学年	第5 学年	第6 学年				
1	責・使	学校の授業の予習をするようにしています。	100%	86%	39%	57%	83%	67%	72%	72%	55.6%	
2	責・使	学校の授業の復習をするようにしています。	100%	95%	61%	95%	94%	100%	91%	89%	68.7%	
3	挑・探	自分で勉強の計画を立てています。	100%	86%	78%	86%	89%	71%	85%	75%	62.8%	
4	責・使	「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしています。	100%	81%	50%	81%	89%	83%	81%	81%	79.6%	
5	挑・探	学習を最後までやりとげて、うれしかったことがあります。	100%	90%	61%	81%	89%	83%	84%	78%	84.1%	
6	責・使	将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強しています。	100%	90%	61%	81%	89%	100%	87%	83%	84.7%	
7	挑・探	分からないことはそのままにせず、分かるまで努力しています。	100%	90%	72%	86%	78%	100%	86%	79%	83.4%	
8	歌	「もっと力をつけたい」、「分かるようになりたい」から勉強しています。	100%	95%	67%	76%	83%	100%	87%	81%		
9	挑・探	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみよう」と思っています。	100%	100%	72%	90%	89%	78%	86%	85%	80.7%	
10	挑・探	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」「こうすればできるのではないか」と予想しています。	100%	86%	78%	76%	89%	94%	87%	86%	84.4%	
11	情・判	授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。	100%	90%	44%	62%	89%	56%	74%	70%	50.4%	
12	情・判	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	100%	90%	50%	62%	78%	78%	76%	75%	59.6%	
13	思・表	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	100%	95%	44%	52%	83%	78%	76%	78%	72.6%	
14	思・表	授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	100%	90%	78%	57%	83%	89%	83%	79%	73.6%	
15	思・表	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	100%	86%	61%	67%	89%	56%	76%	85%	64.4%	
16	思・表	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	100%	95%	67%	71%	89%	78%	83%	79%	66.6%	
17	知・技	授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。	100%	95%	56%	71%	83%	56%	77%	80%	70.8%	
18	思・表	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法がうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	100%	90%	44%	86%	78%	83%	80%	80%	70.0%	
19	挑・探	学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	100%	95%	72%	76%	89%	83%	86%	80%	74.3%	
20	知・技	ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	100%	90%	72%	90%	89%	89%	88%	83%	81.0%	
21	協・協	授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	100%	95%	78%	71%	89%	83%	86%	85%	79.4%	
22		授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	100%	100%	61%	76%	89%	94%	87%	87%	70.3%	
23	総合	「総合的な学習の時間」では、自分で課題をたてて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。			72%	67%	72%	72%	71%	75%	69.0%	
24	改善 計画	国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。			61%	76%	72%	89%	75%			
25		国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしています。			61%	81%	83%	72%	74%			
26		算数の授業では、とき方や考え方を絵や図などに表して考えています。			50%	62%	78%	83%	68%			
27		算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしています。			89%	86%	89%	94%	89%			
28		理科の授業では、観察や実験の結果をノートやグラフ、表などに記録したり記述したりする方法について学んでいます。			83%	86%	94%	100%	91%			
29	読書 活	本を読むのが好きです。	100%	95%	78%	67%	83%	72%	83%	78%	80.1%	
30		読んだ本の内容について、友だちや家族と話しています。	100%	86%	61%	57%	72%	67%	74%	75%	59.5%	
31	情・判	家で本や資料などを利用して学習しています。	100%	86%	67%	81%	83%	67%	81%	77%	61.2%	
32	外国 語活	外国語活動の授業は、楽しいです。			72%	76%	89%	89%	82%	88%		
33		外国語活動の授業が将来役に立ちます。			65%	90%	89%	89%	83%	87%		
34	ICT	板書や掲示物、映像などを見ることで、しっかり考えたり理解したりすることができます。	100%	90%	72%	67%	89%	100%	86%			
35		板書や掲示物、映像などを見ることで、勉強したい、調べたいという思いをもったことがあります。	100%	100%	72%	86%	89%	89%	89%			
36	生活目標	2学期の生活目標 「時間を守って行動しよう」	100%	100%	67%	90%	94%	94%	91%			
37	5つの 合言葉	時間を大切に作る	100%	100%	67%	90%	94%	100%	92%			
38		周りを美しく整える	100%	90%	61%	86%	94%	78%	85%			
39		挨拶をする	100%	95%	83%	86%	100%	89%	92%			
40		話をよく聞く	100%	95%	67%	76%	89%	94%	87%			
41		自分の思いを伝える	93%	100%	78%	81%	94%	78%	87%			
項目別 平均	学習習慣・学習動機・学習意欲		100.0%	89.3%	61.1%	80.4%	86.8%	88.0%	84.3%	79.7%		
	課題発見・解決学習		100.0%	92.9%	63.3%	71.7%	85.2%	77.8%	81.8%	80.7%		
	読書活動		100.0%	88.9%	68.5%	68.3%	79.6%	68.5%	79.0%	76.8%		
	外国語活動				68.5%	83.3%	88.9%	88.9%	82.4%	87.4%		
	ICT		100.0%	95.2%	72.2%	76.2%	88.9%	94.4%	87.8%			
5つの合言葉		99%	96%	71%	84%	94%	88%	88.7%				

令和元年度 学校評価 生活と学習アンケート (第2回・12月実施)

中学校

70%以上		肯定的評価の割合		1年	2年	3年	広南中	広島県	
70%未満		No.	質問項目	R1	R1	R1	H30	R1	H30
課題発見・解決学習	課題の設定	挑・探	1 授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思っています。	100%	82%	100%	91%	95%	70%
		挑・探	2 授業では、解決しようとする課題について、「だぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	95%	94%	100%	94%	96%	76%
	情報の収集	情・判	3 授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	84%	65%	75%	77%	75%	41%
		情・判	4 授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	74%	71%	75%	75%	73%	48%
	整理分析	思・表	5 授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	58%	65%	90%	81%	71%	52%
		思・表	6 授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	89%	82%	90%	87%	88%	66%
	まとめ創造表現	思・表	7 授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	79%	65%	75%	74%	73%	59%
		思・表	8 授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	68%	65%	75%	75%	70%	61%
	実行	知・技	9 授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。	95%	76%	95%	92%	89%	67%
	振り返り	思・表	10 学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	74%	88%	95%	91%	86%	67%
		挑・探	11 学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	89%	82%	85%	87%	86%	61%
	その他	知・技	12 ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	100%	82%	100%	87%	95%	74%
		協・協	13 授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	95%	71%	95%	91%	88%	80%
			14 授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	95%	82%	100%	89%	93%	58%
	総合		15 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	95%	82%	100%	98%	93%	68%
学習習慣	挑・探	16 自分で勉強の計画を立てています。	79%	82%	90%	79%	84%	54%	
	責・使	17 学校の授業の予習をするようにしています。	42%	47%	70%	53%	54%	43%	
	責・使	18 学校の授業の復習をするようにしています。	58%	71%	95%	81%	75%	62%	
学習動機	責・使	19 「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしています。	68%	88%	95%	81%	84%	66%	
学習意欲	挑・探	20 わからないことはそのままにせず、わかるまで努力しています。	84%	88%	95%	85%	89%	77%	
	挑・探	21 学習を最後までやりとげてうれしかったことがあります。	95%	76%	95%	89%	89%	80%	
	責・使	22 将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強しています。	95%	88%	100%	92%	95%	80%	
読書習慣		23 本を読むことが好きです。	95%	65%	85%	72%	82%	72%	
		24 読んだ本について友達や家族と話します。	79%	35%	45%	58%	54%	48%	
	情・判	25 家で本や資料などを利用して学習しています。	100%	76%	55%	66%	77%	49%	
項目別平均	課題発見・解決学習			86%	77%	90%	88%	85%	63%
	学習習慣・学習動機・学習意欲			74%	77%	91%	85%	81%	66%
	読書習慣			91%	59%	62%	71%	71%	56%



注) 「感謝・貢献」の資質・能力については、全国学力テストの生徒アンケートの項目を活用する。

長期スパンの資質・能力の変容 生徒自身による個人内評価の例

本校で設定した資質・能力の高まりを意識した生徒の振り返り例

(自分が成長したと思うこと、課題と思うこと など)

私はこの起業プロジェクトでは 経理部長 という大きな役割になることができました。初めは本当にとて不安だったけど、プレゼンでは 小学校、中学校の先生、校長先生など、たくさんの方にすることでだんだん緊張をほぐれました。本番のプレゼンでは、少しかんでしまったけどいつも通り落着いて話すことができました。これは③の挑戦バという力がついたと思います。

な教育祭での販売のお願いに行き、頭の中が真白になってしまい、全く話すことができませんでした。次の発表のときにも、また、頭の中が真白になったらどうしようと思っちゃったけど、挑戦バをもって失敗をせずにプレゼンを行うことができました。また、経理部長の大きな役割は お金の管理です。自分の役割に責任をもって行動することができました。でも、お金の出納簿にかいてあるお金が一致しなかったことがとても残りでした。はじめはとて大変で、正直商品もつくりたくて、経理部長やらならたらよかったと思っていました。でも、プレゼンで緊張をほぐしたのは自分の中ではとてもすごいことで、自分では、成長したと思います。文化祭は終わっちゃったけど、自分の仕事はまだまだたくさんあるので最後まで頑張りたいです。

8 資質・能力ルーブリックの活用について

Sルーブリック

さらに上質な学びのイメージを S として生徒と共有することで、学びの価値や学びの質を高める

S: Super(期待する活動以上に、何かプラス α が見られる) 下線部がプラスアルファ

A: 十分満足できる(期待する活動が十分見られる)

B: 概ね満足できる(期待する活動は見られるが、未到達な部分もある)

C: 努力を要する(期待する活動が見られない) ※到達目標を A とする。

S~C の4段階評価は、黒川晴夫(関西大学総合情報学部)教授の考え

<資質能力のルーブリック(基本)>

		資質・能力	評価	評価基準	
問題解決へ向かう探究の能力	知識・技能	知識・技能	S	課題解決に必要な知識や技能を習得・活用して人に教えることができる。	
			A	課題解決に必要な知識や技能を習得し、活用することができる。	
			B	課題解決に必要な知識や技能を習得することができる。	
			C	課題解決に必要な知識や技能を習得することができない。	
	思考力・判断力・表現力	情報収集・判断	情報収集・判断	S	尋ねたり、調べたり、試したりして、 <u>もの見方や考え方を広げ深める</u> ことができる。
				A	尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。
				B	尋ねたり、調べたり、試したりして、関係ありそうなものを見付けることができる。
				C	尋ねたり、調べたり、試したりすることができない。
		思考・表現	思考・表現	S	しっかり考えて、学びを自分のものにし、 <u>工夫や意見を加えて表現</u> することができる。
				A	しっかり考えて、学びを自分のものにして表現することができる。
				B	学んだことを表現することができる。
				C	学んだことを表現できない。
主体的・協働的に地域社会に参画しようとする意欲と態度	学びに向かう力・人間性	協力・協働	S	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かして <u>課題を解決</u> することができる。	
			A	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。	
			B	他の人と協力しようと努力することができる。	
			C	他の人と協力しようとしていない。	
		感謝・貢献	感謝・貢献	S	感謝・貢献することを重ねることで <u>絆を深める</u> ことができる。
				A	感謝の心を持って、自分なりに貢献することができる。
				B	感謝の心を持って、自分なりに貢献しようと努力することができる。
				C	感謝の心を持っていない。
		責任・使命	責任・使命	S	自分の役割や使命を考え、 <u>生き方の目標を見付け出す</u> ことができる。
				A	自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。
				B	自分の役割や使命を理解し、果たそうと努力することができる。
				C	自分の役割や使命を理解していない。
		挑戦・探究	挑戦・探究	S	夢を持ち、疑問やできないことを大切に、 <u>新しい自分やものを創り出す</u> ことができる。
				A	夢を持ち、疑問やできないことを大切に、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。
				B	夢を持ち、疑問やできないことを大切に、学び続けようと努力することができる。
				C	できないことや分からないことをあきらめている。

実際の授業では、発達段階・学習対象や内容に応じて児童生徒にも分かりやすいものに表現を変えて使用する。各 PROJECT や単元のルーブリックはこれを規準に考えて定める。

※ Sの内容については、児童生徒自身に考えさせたり、授業の中で見付けたりすることも効果的である。

※ <参考>資質・能力を単元目標に応じて生徒と共有できるものにした例

英語科・第7学年

挑戦問題「自分たちの学校生活を紹介しよう！」

今年の挑戦を通して、自分にどんな力がついたかをそれぞれの資質・能力について振り返り、自己評価の欄にS～Cの自己評価を書きましょう。

現指導要領	資質・能力	評価	評価基準	自己評価	
言語や文化についての知識・理解	知識・技能	S	学校やおすすめのお店について伝えながら、思った以上に会話を広げることができた。		
		A	学校やおすすめのお店について伝えながら、少し会話を続けることができた。		
		B	学校やおすすめのお店について伝えることができた。		
		C	学校やおすすめのお店について伝えることができなかった。		
外国語理解の能力	思考力・判断力・表現力	情報収集・判断	S	伝えたいことについて相手を感じさせるほどの情報を収集することができた。	
			A	伝えたいことについて十分な情報を収集することができた。	
			B	伝えたいことについてある程度情報収集をすることができた。	
			C	伝えたいことについて情報収集をすることができなかった。	
外国語表現の能力	思考・表現	S	自分の伝えたいことを自分なりに工夫を加えて表現できた。		
		A	自分の伝えたいことをしっかりまとめて表現できた。		
		B	自分の伝えたいことを表現することができた。		
		C	自分の伝えたいことをまとめて表現することができなかった。		
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	挑戦・探究	S	今回の経験を活かし、次の挑戦でもがんばりたい。		
		A	今回の挑戦では、自分なりに見通しを持って粘り強く学び続けることができたと思う。		
		B	今回の挑戦には自分なりの努力はしたと思う。		
		C	このようなことに挑戦することは自分には無理だと思った。		
	責任・使命	S	日本人としての自分の立場や責任を理解し、積極的に日本の良さを伝えていきたい。		
		A	日本人としての自分の立場や責任を理解し、日本の良さを伝えられるようになりたい。		
		B	日本人としての自分の立場や責任について自分なりに理解はできる。		
		C	日本人としての自分の立場や責任について考えたことはない。		
	協力・協働	S	話し合いや活動で協力し、みんなの意見や力を生かすことができた。		
		A	話し合いや活動で協力し、課題を解決できた。		
		B	話し合いや活動で協力できた。		
		C	話し合いや活動で、協力できなかった。		
	感謝・貢献	S	広南中や地域の良さを外国の人に積極的に伝えたいと思う。		
		A	広南中や地域の良さを機会があれば外国の人に伝えたいと思う。		
		B	広南中や地域の良さは理解している。		
		C	広南中や地域の良さを理解できていない。		


9 広南学園授業観察シート（令和2年度）

呉市立広南小学校

令和2年 月 日（ ）

授業評価カード

年 組 教科名（国語・理科） 授業者（ 教諭）
 参観者（ ）

評価項目	評 価
①児童は、本時（本単元）で「何がどのくらいできるようになればよいか」見通しをもっていたか。	4 3 2 1
②児童が一人でじっくり考える場があり、自分の考えをもっていたか。	4 3 2 1
③児童は、自分の考えを、理由をつけて表現していたか。	4 3 2 1
④児童は、友達の意見を聞いたり質問したりしながら、自分の意見と比べて考え、伝えていたか。	4 3 2 1
⑤教師は、児童の考えを広げたり深めたりするために、発問・指示の工夫をしていたか。	4 3 2 1
⑥ICTの活用により児童の学びが深まったか。	4 3 2 1
⑦児童が学習の課題やめあてに対して、自分の言葉で振り返りをしていたか。	4 3 2 1
⑧めあて（課題）とまとめ（評価）はつながっていたか。	4 3 2 1
4 とてもあてはまる 3 あてはまる 2 あまりあてはまらない 1 ほとんどあてはまらない	
【気付き・感想】	
	

★授業翌日までに、 に提出して下さい。よろしくお願いします。

授業評価カード (令和2年度版)

年 組 教科名() 授業者(教諭)
 参観者()

	評価項目	評 価
言葉磨き	磨1 生徒の考えを広げたり深めたりするための的確な指示・質問・発問ができていたか。(深い学び)	4 3 2 1
	磨2 生徒の主体性を引き出す共感的な評価活動(「ほめる」「認める」「勇気づける」声かけ)ができていたか。(主体的な学び)	4 3 2 1
	磨3 生徒のことばの力(TPOを意識した言語能力)の育成につながる的確な指導ができていたか。(対話的な学び)	4 3 2 1
情報活用能力	●生徒の情報収集・判断・活用能力を引き出す指導ができていたか。	4 3 2 1
	●ICT等を活用して授業改善を行っているか。 活用場面 ICT 個：個別 ICT グ：グループ協議 ICT 一：一斉	4 3 2 1
カリキュラム・マネジメント能力	○めあて(課題)とつながる生徒のまとめ・振り返り(評価活動)を行わせることができたか。(主体的な学び)	4 3 2 1
	○OSループリック等を活用しながら、生徒の学習意欲を引き出す授業の導入ができたか。(主体的な学び)	4 3 2 1
	○授業の中で、前時の振り返りや、予習課題や復習課題を生かした指導ができていたか。(主体的・深い学び)	4 3 2 1
	○理解や思考を促すワークシートやノート指導・板書等の工夫を行っていたか。(深い学び)	4 3 2 1
	○問題解決の過程を踏まえた指導(「しっかり教える」「じっくり鍛える」「活躍の場面を与える」)を意識した単元計画になっているか。(深い学び)	4 3 2 1
	○他の単元や教科、実社会とのつながりを見通した「貫きカリキュラム」を意識した単元計画の工夫はみられるか。(深い学び)	4 3 2 1
4 とてもあてはまる 3 あてはまる 2 あまりあてはまらない 1 ほとんどあてはまらない		
【気付き・感想】		



- 「学びがい」向上部会の取組(課題発見・解決学習・カリキュラムマネジメント)
- 「指導力」向上部会の取組(指導技術・方法の改善)

